

ならやまトーク・投句 (春酣編)

〈山の辺の道 万葉歌碑探訪〉

歌碑訪ひて山の辺の道春日満つ 杉本 登

(歴史クラブの万葉歌碑巡りは、春本番を思わせる日和に恵まれた)

石上^{いそのかみ}辺り歩けば早や桜 田代一行

(石上神宮からの山の辺の道。暖かさに気の早い桜がもう咲いて)

八朔の棚に義理立て肩重し 杉本 登

(名物の無人の店に八朔が並ぶ。つつい買ってリュックが重い)

辛夷^{こぶし}の里犬養節に響みけり 八木健彦

(辛夷の花が咲く里辺り、歌碑の前で一同の犬養節が響き渡る)

袈田路土筆にはやる指忙し 中井 弘

(手白香媛の袈田陵へ向かう畦道。土筆採りに夢中の媛たち)

袖振るや万葉乙女も菜の花も 青木幸子

(柳本あたりは一面の菜の花畑。揺れる花と恋人に袖を振る万葉の)

乙女のイメージがオーバーラップする)

袈道^{ふすまじ}の歌碑に唄へば山おぼろ 阿部和生

(本日のハイライトは袈道の歌碑。人麻呂の哀慟の挽歌を弓月ヶ岳
に向って斉唱する。異国のメロディーに驚く外国の観光客)

〈ならやま春爛漫〉

ニユーフェイス歓迎野宴土筆伸ぶ 鈴木末一

(新入会員歓迎会、冒頭の挨拶はこの一句で決まる)

ようこそと川井桜の咲く気配 岡田安弘

(多くの新人を迎えて、川井さん遺愛のサクラも急ぎほころぶ)

サイトにも若き声増え春盛る 八木順一

(今年も多くの新入会員の顔が揃う。「若き」と詠み人は言う)

かの人の声するがごと^{ねはん}に^し涅槃西風 古川祐司

(桜が咲き、西風が優しく吹き始める。諸先輩の温顔が浮かぶ)

落味噌の苦みや姥が握り飯 小山喜子男

(手作りのお握りに、落味噌がほろ苦い。頑張るのも程々にと)

温暖化の罪も悔過^{けか}して修二会明く 古川祐司

(例年になく暖かなお水取りだった。地球温暖化は吾等の罪と)

木々の芽や飛天の舞いて踊るごと 古川祐司

(春の里山。新芽が様々なポーズで枝に踊る、水煙にかかる飛天の舞)

花芽踊るブルーベリーの若き株 古川祐司

(5本の若木を植え付けた。ピンクの花芽がほころぶ様子が嬉しい)

春眠や身じまい止めし酒笑う 岡田安弘

(今日こそは、と思うばかりの身辺整理。すぐ眠くなる季節のせいだ)

投句歓迎 (古川まで)